

結果票の見方

<総合判定について>

異常なし：今回の検査では異常は認められませんでした。

要観察：軽度の異常を認めます。今後も健診等で経過をみてください。

要精密：異常を認めます。医療機関を受診し医師の指導を受けてください。

項目	参考基準値	解説	
問診	—	自覚症状・家族歴・既往症・服薬治療中の病気の有無・喫煙の有無など質問をもとにした医師の予備的診断です。	
計測	身長・体重	—	
	BMI	18.5～25未満	体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m) で算出した数値のことをいい、肥満の度合いを判断する指標になります。
	腹囲	男性：85cm未満 女性：90cm未満	内臓脂肪の蓄積状態を調べます。
	視力	裸眼：0.8～1.2	近視かどうかわかります。
	聴力	1,000Hz：所見なし 4,000Hz：所見なし	難聴の有無や程度がわかります。
血圧	最高血圧（収縮期）	140mmHg未満	血圧とは、心臓から全身に血液を送り出す時に血管にかかる圧力のことをいいます。血圧の高い状態が続くと、心臓や血管に負担をかけ、脳卒中や心筋梗塞などを引き起こす原因になります。
	最低血圧（拡張期）	90mmHg未満	
脂質	総コレステロール	140～199mg/dl	ホルモンや細胞膜の材料になります。多すぎると動脈硬化を起こす原因になります。
	中性脂肪	150mg/dl未満	肝臓でつくられエネルギー源として利用される脂肪の一種です。多くなると、肝脂肪や肥満、動脈硬化の原因になります。
	HDLコレステロール	40mg/dl以上	善玉コレステロールとも言われ、動脈硬化を予防する働きがあります。ただし、肥満、運動不足、喫煙などの原因によって値が低くなると、動脈硬化を促進する恐れがあります。
	LDLコレステロール	120mg/dl未満	悪玉コレステロールとも言われ、肝臓から末梢組織へコレステロールを運搬する働きがあります。多すぎるとコレステロールが血管壁を蓄積されることになり、動脈硬化を引き起こす原因になります。
肝機能	GOT (AST)	35U/l以下	肝臓、心臓、筋肉に含まれている酵素で、肝臓、心臓などの障害を調べます。それらの臓器が障害を受けると値が高くなります。
	GPT (ALT)	35U/l以下	肝臓に多く含まれている酵素で、肝臓の機能を調べます。肝臓が障害を受けると値が高くなります。
	γ-GTP (γ-GT)	55U/l以下	蛋白質を分解する酵素のひとつで、肝臓の機能を調べます。特にアルコールが原因で肝臓に障害を受けると値が高くなります。
	ALP	340U未満	高値は胆汁の排泄に障害がある疑いがあります。
代謝系	空腹時血糖	110mg/dl未満	高値は糖尿病の疑いがあります。食事の影響が強いため空腹時に検査をします。
	ヘモグロビンA1c (NGSP値)	6.0%未満	赤血球の中にあるヘモグロビン (Hb) とブドウ糖が結合したものです。過去1～2ヶ月の血糖の状態が推測でき、値が高いと糖尿病などの病気が疑われます。
	尿糖 (半定量)	(-)	糖尿病などの糖代謝異常を調べます。血糖値が高い状態が続くと血液中のブドウ糖が尿中に排出されます。
	尿酸	7.0mg/dl以下	細胞の核であるプリン体が分解されてできる老廃物で、高尿酸血症 (痛風) を調べます。高くなると痛風、尿路結石の原因になります。
血液一般	Ht (ハマトクリット)	男性：38.0～48.9% 女性：34.0～43.9%	血液全体に占める赤血球の割合を表します。低値は貧血の疑いがあります。
	Hb (ヘモグロビン)	男性：13.0～16.6g/dl 女性：11.4～14.6g/dl	赤血球の中の物質で酸素を運ぶ働きをしています。低値は鉄欠乏性貧血の疑いがあります。
	赤血球数	男性：400～539 (×10 ⁴ /mm ³) 女性：360～489 (×10 ⁴ /mm ³)	赤血球は全身に酸素を運ぶ働きをしています。赤血球が少ないと酸素を運ぶ能力が落ちるため、動悸、息切れ、めまいなど貧血の症状を引き起こす原因になります。
	白血球数	33～89 (×10 ² /mm ³)	白血球は体に侵入してきた細菌・ウイルス・異物・有害物等をとらえ、切除したり殺したりする働きがあります。高値は感染症の疑い、非常に高い値・低値は血液の病気の疑いがあります。
尿・腎機能	尿蛋白 (半定量)	(-)	腎臓や尿路系の異常を調べます。腎臓や尿路系に障害があると尿中に蛋白がでます。ただし、激しい運動の後や長時間の立位姿勢、発熱などで蛋白が出ることもあります。
	尿潜血	(-)	尿中に混じるごく微量の血液の有無を調べます。腎炎・起立性蛋白尿などで陽性の場合があります。
	血清クレアチニン	男性：1.10mg/dl以下 女性：0.80mg/dl以下	身体を構成する蛋白質の老廃物のひとつです。クレアチニンは尿として体外に排出されますが、腎臓の働きが低下すると体外に排出されなくなり、値が高くなります。
胸部X線	—	肺の病気の有無・心臓の大きさ・大血管の大きさを調べます。	
心電図	—	心臓の筋肉が収縮するときに発生する電気をとらえて、波形をグラフに記録する検査です。波形の状態から、心臓の異常を調べることができます。	